



志楽小学校だより

舞鶴市立志楽小学校
令和2年度学校だより
第4号
令和2年6月30日発行



一人一人に寄り添って



梅雨に入り、校門の横のアジサイが満開になりました。最近見かけることの少なくなったカタツムリですが、アジサイの葉の上でゆっくり動く姿を見ました。新型コロナウイルスの感染拡大防止のために、子どもたちにも様々な場面でいつもと違う生活様式を要求し、不自由な思いをさせていますが、季節は確実に進み、自然の姿は変わらず、わたしたちを癒してくれます。

蒸し暑い日が続く毎日、子どもたちは汗だくになりながらも元気に登校し、休み時間には多くの子どもたちが外に出て遊んでいます。最近ドッジボールを楽しむ児童が増えています。強いボールを投げようと張り切る姿、走ってボールを取りに行く姿、器用にボールから逃げる姿、ずいぶん板についてきました。体育の時間に鉄棒やうんていに取り組んでいる学年の子どもたちは、マメができたり、その皮が破れたりを繰り返しながら、熱心に練習しています。「先生、逆上がりができるようになった。」「うんていが最後まで行けた。」とできたことを満面の笑顔で報告してくれます。昨年度の体力テストから本校児童は全般的にボールを投げる力や握力が弱いことが分かりました。こうした遊びの中で、きつと力が付いていくことでしょう。梅雨の晴れ間には、どんどん外で遊んでほしいと思います。

さて、6月29日から「いじめ防止強化月間」として、放送での人権集会、児童のアンケートや面談、各学級での人権学習、児童会の「あつまれ!! 太陽キラキラ運動」の取り組みを始めています。

臨時休校から学校が再開して1か月が過ぎたころから、体の不調を訴えたり、通信を通じたゲームでのトラブルを学校に持ち込んだりして、不安定になる児童が少なくありませんでした。子どもたちの表情やつぶやきなどを敏感に察知して、困り感に寄り添い、おうちの方と連携を取りながら、子どもたちが元気に過ごし、友達と明るく関わっていきこうとする力を育てていきたいと思います。ご家庭で困りごとを相談された場合は、いじめの未然防止や早期解決のため、学校にもお伝えいただきますようご協力をお願いいたします。

1学期も残すところ1か月。学習を確実に進めるとともに、学習のまとめや復習など、一日一日が貴重です。体調管理に気を付けて、元気に過ごしてほしいものです。ご協力をお願いいたします。

校長 小森 昌子
教職員 一同



「怒る」のは、相手にリクエストを伝えるため

毎日のように、子どもたちが怒っている姿を見ます。大人も程度の違いはあれ、毎日のように怒っているかもしれません。

最近、毎週土曜日に新聞で「アンガーマネジメント」の記事が連載されているのを読みます(毎週ではないのですが...)。「アンガーマネジメント」というのは「怒りと上手に付き合う」方法です。その記事を読んで、「どきっ」とすることがありました。

わたしたちが「怒る」のは、実は相手にリクエストを伝えるためなのだそうです。「分かってもらいたい」という感情が隠れているということです。そうならば、怒ったときに相手に聞いてもらう必要があります。そのために使ってはいけないNGワードが紹介されていました。

その1:「前から言っているけど」「何度も言っているけど」「この前も言ったけど」

怒られる側は「前のことは関係ないのに」と反感を覚えてしまいます。

その2:「なんで?」「どうして?」を繰り返す。

怒られている側は、追い詰められていると思って言い訳か逆ギレということになります。「どうしたらできる?」「何があればいい?」と未来を聞くようにするのがよいそうです。

その3:「いつも」「絶対」と決め付ける言葉。

その4:「ちゃんと」「しっかりと」「きちんと」

「ちゃんとやってるのに」と反抗したくなるそうです。

怒るのは簡単ではないですね。感情で怒らず、言葉に細心の注意を払いたいものです。